

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700053
法人名	医療法人社団 中野泌尿器科
事業所名	グループホーム 花ちとせ
所在地	兵庫県神戸市須磨区千歳町4丁目3番30号
自己評価作成日	令和3年2月15日
評価結果市町村 受理日	令和4年4月4日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)	http://www.wam.go.jp
基本情報リンク先	
【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和4年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人社団ということもあり24時間体制での医療連携が図れている。看護師も在職しており昼夜問わず主治医の指示を仰ぐ事が出来ている。特に専門的治療(泌尿器科・血液透析)の必要な方が多く入居されており、体調の異常や異常には透析室との連携を日々行うことにより安心・安全な生活が送れるように支援に努めている。 昨今のコロナウイルス感染蔓延を受け 入居者様の楽しみの一つでもある外出や家族様との面会も出来なかつたり、制限があつたりする中 利用者の方々に「屋内内行事などで少しでも楽しみを持って頂けるように努力している。又、その様子を家族様に「花ちとせ通信」を送っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・24時間医療体制が整備され、主治医、看護師による健康管理や医療面での相談、助言等の対応が整っている。
【工夫点】・管理者のリーダーシップにより、個別支援に向けた取り組みが実施されている。特に日々の状態や変化に関する申し送りを活用した全職員間の共有が図れている。・コロナ禍で利用者の外出がままならない中で屋内行事を楽しむ利用者写真を掲載した「花ちとせ通信」を発行して家族に送り米寿や誕生日祝い等の様子を伝えていく。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己評価	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1) 〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常時携帯している名札の裏に理念が記載されており何時でも確認できる。又、会議や毎日の朝礼の際に復唱している。	地域密着型サービスの意義をふまえた3つの理念を作り、職員が常時携帯している名札の裏に記載、いつでも確認できるようにして会議や毎日の朝礼時に唱和、共有し実践に繋げている。		
2	(2) 〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ感染予防の観点から事業所内に地域の方をお呼びすることは控えている。	コロナ禍前は桜まつりやクリスマス会、自治会の地区掃除に参加等地域の一員として日常的に交流をしていたが現在は感染予防対策にて控えている。		
3	〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	恒例であった桜まつりや 地域の方々を招いたクリスマス会なども現在では出来ていない状況である。施設内の行事として開催している。			
4	(3) 〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。一昨年より家族様や民生委員の方などの来訪を控えて頂いている。	運営推進会議では利用者やサービスの現状報告や評価への取り組み等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしているが最近ではコロナ禍で家族、民生委員等の出席を控えている。	運営推進会議で事故・ヒアリットを記載報告をしているが、各月事故数へ、ヒアリットは数への折れ線グラフ活用による見える化推進による更なる事故数減へ向けた活動が期待される。	
5	(4) 〇市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域のあんしんすこやかセンターの方は、来訪されている。生活保護受給の入居者様がおられるので区役所生活支援課の方との連携も図れている。	運営推進会議にあんしんすこやかセンター担当者が出席し又生活保護受給利用者が在籍している背景で区の生活支援課担当との連携により事業所実情やサービス取組現況を伝える等協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5) 〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束に関する研修をはじめ、勉強会などを開催しながら各フロアでの問題と重ね正しい理解が出来るように努めている。	年2回の身体拘束廃止研修にて禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、一人ひとりのADLに合わせた課題等の勉強会を各フロアで開催し正しく理解できるようにしている。玄関施錠は日中はフリーとしている。		
7	(6) 〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について字ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修は職員全員参加し様々な角度からその防止について話し合っている。	虐待防止研修は身体拘束と合わせ年2回全職員参加で実施し、種々場面に於ける虐待等にて虐待が見過ごされる事がないよう全職員が注意を払い防止に努めている。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護、成年後見制度については外部研修に参加出来ず、消極的な部分であるが今後、須磨区役所生活支援課の方に依頼し研修の開催を考えている。	現在成年後見制度活用者が1名在籍し弁護士が来訪し、対応等学ぶ機会を得ている。又須磨区生活支援課の職員による研修開催を計画中である。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に至るまでに契約内容を説明し、理解して頂けるように努めている。不明な点があれば随時対応し、信頼関係を築けるよう心がけている。	契約締結時には契約内容など説明し理解に努め利用者や家族等不安や疑問点を尋ね不明点があれば随時十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族様との連絡を密にしており、出来る限りの要望や希望意見に耳を傾けきめ細やかに対応している。	管理者は毎月の定期報告等にて連絡を密にし、又「花ちとせ通信」を発行して利用者や家族等が意見・要望を外部者に表せる機会を設け運営に反映させている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回(各フロア)で会議を開催しており、職員の日頃抱えている問題から不満など意見を出し合っている。	管理者は月1回全体会議を開催し、運営に関する職員意見や提案を聞く機会を設け職員が日頃抱えている問題や不満等を意見を出し合いこれからの改善策を運営に反映し、又必要に応じ個人面接を実施している。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を代表者に提出している。必要に応じて個人面談を行い直接、話が出来る場を設けている。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定表を作成し、施設内研修に取り組んでいる。外部研修に参加出来ないがズームでの研修参加を行いインフォメーションしている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他グループホームが開催している運営推進会議に参加している。近隣の事業所などから参加の依頼があれば参加する予定である。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	サービス提供前に充分な聞き取りを行う。本人は勿論、家族様の意見などを踏まえ、日々職員間でカンファレンスを開催し、安心してお過ごし頂けるように努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	ご本人様の希望を重視しながら家族様の考えと摺合せ家族様にも安心して頂けるようなサービス提供の形を考えている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様と家族様が必要としているものが「何」であるのかを職員と検討し当法人で出来る限りの支援を提供する。状況の変化も視野に入れながら広い範囲でのサービスの提供に努める。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や現状を把握し、できるだけ本人の意志を尊重し、寄り添い対応していけるよう努めている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花ちとせ通信で近況報告を行い、家族様からの入電時には身体の変化や、エピソードなどをお伝えしている。又、受診に向かう際には極力 付添の協力をお願いし、事業所・家族様でご本人を支えて行けるように支援している。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の来訪が制限される中、家族様にはご本人の様子をごまめに連絡しながらお伝えし、ご本人には家族様のお話をしながら双方の関係の良好に努めている。	これまでの地域社会との関わりを継続し、その関係を個別的に把握している。今はコロナ感染防止から面会はできない為、オンライン面会や電話で声を聞いていただく等して継続的な交流ができるよう働きかけている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないよう職員が会話などに介入したり他利用者様が巻き込むような会話をを行い一緒に会話が出来る場面の提供に心がけている。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族様が来所され、相談や近況報告をして下さる。出来る限りの支援を行っている。			

自己第 三	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
23	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子を観察し、意向の変化にはその都度対応出来るようにカンファレンスを開催し、個々に合ったサービス提供に努めている。	利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、一人ひとりの思い、意向等の把握に努めている。日々の行動や表情から汲み取り、本人はどうかの視点で職員全員で関心を払い、話し合いながら取り組んでいる。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族様からの情報提供など、本人の現状把握に努め個別ケアにつなげている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や申し送りでの現状把握を行い日々の変化を見逃さないよう努めている。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてサービス担当者会議、カンファレンスを開催し本人の状況に応じた対応の見直しを行っている。記録には職員のサインを貰い全員が共有出来るようにしている。	利用者の生活リズムを把握するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の状態を全員で確認している。状態変化時は情報収集等を行い、意見交換及びカンファレンスにて話し合い、介護計画を作成している。	「日常生活アセスメント表」を活用し、各利用者の生活課題の抽出による職員の共有化を図り更なるサービスの向上への活動が期待される。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアでの申し送りや個別の介護記録・伝達を記録している。毎朝の朝礼で他フロアの状態も知り得、より実践的な介護計画の見直しを行っている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	男性入居者様に元旦の朝、ソファルコールのボールを提供したり、車椅子移動の方の強い希望に合わせ支えながら歩行をしたり、その時々々の状況に合わせて臨機応変で柔軟なサービス提供を行っている。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人の運営推進会議に参加し意見交換を行っている。病院受診・買い物・本や雑誌・食べ物など様々な角度から地域資源を活用しサービス提供繋げている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・看護師の往診があり毎日の状態を報告し必要に応じて検査・受診を行っている。状態に応じて他医療機関へ紹介を行うったり適切な医療が提供出来るように努めている。	月・金週2回主治医の往診を受けている。看護師を配置し利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。夜間緊急時など看護師に相談し主治医につなぐこともできる。迅速な対応で適切な医療につなげることができている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在職しており細かな異変も報告し必要な処置や主治医への連絡などがされている。		
32	(15) ○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医、担当医が情報共有を行っている、連携を測っている。常時状態が把握できるように管理者が窓口となり情報収集を行っている。看護・介護サマリアを入院先に渡し、医療情報提供書を渡されるなど正確な情報共有を行っている。	入院は慣れない場所での治療等で心身に大きなダメージをもたらす故、入院する際は、本人のストレスや負担を軽減するために、医療機関に対して本人やケアに関する情報を提供している。病院相談員と連携して速やかな退院支援に結び付けている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する同意を得ているが、医師が終末期だと判断した際に再度同意を得るようになっている。家族様を交えての話し合いを行い希望に添えるように努めている。施設内研修で終末期ケアについて理解を深める事で経験の少ない職員にも不安無くケアに当たれるよう努めている。	「ターミナル同意書」等作成し入居時に説明し同意を得て終末期の支援のあり方について段階ごとに家族等の意向を確認している。その時を迎えた時は主治医による説明と家族の意向を踏まえ看護師と職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った行動が出来るように研修を重ねている。管理者・看護師・主治医とは常に連絡が取れる状況で対応・指示を速やかに出来るようになっている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回 日中・夜間を想定し防災訓練を開催している。職員から災害発生時の対応についての質問にはその意見を取りまとめ上司に伺うようにしている。非常用に備蓄3ヶ月分がある。	年2回消防署員の立合いのもと日中・夜間想定の防災訓練を実施し昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるようにしている。地域との連携は現在はない。	

自己 第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とフライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやフライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や自尊心を傷つける事がないよう言葉かけを工夫している。	ひとり一人の誇りを尊重し、その方の尊厳や権利を守る対応を心がけている。日々の支援でフライバシーを損ねるものになっていないか生活歴や以前の関係性を十分理解し日常的な確認と改善に向け取り組んでいる。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○本人の希望があれば可能な限り添えるように努めている。自己決定においては選択肢を幾つか用意しその中で選んで頂けるような工夫をしている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった日課を決めておらず その日にその方がやりたい事や、過ごしたい時間の使い方に合わせている。			
39	○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	整容は利用者と一緒にいき、身だしなみを整えて頂けるよう努めている。清潔感がある身だしなみを心がけている。2ヶ月に1度訪問理美容を利用している。			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量・水分量は毎日記録に残している。出来る限り自己摂取を目指し常食・刻み・ミキサーなど形態を変更したり箸やスプーンと個々の対応をしている。下膳は、出来る方ばししていただいている。昨今、外食には行けない。	1日全体の栄養や飲水量がどの程度とれているか把握し職員全員が常に意識しながら関わっている。その人がやってみたくて前向きな気持ちや大切に食器洗いをしたいだけ。食への関心を引き起こすため食卓には必ずお箸をセットしている。四季折々の行事では花見弁当やちらし寿司など月1回提供している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	主食の提供料を個々の状態に合わせて変えている。水分提供料も既往歴によって違っておりそれぞれ摂取量の記録もされている。利用者の希望に合わせて臨機応変な対応もしている。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に合わせた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。1週間に1度協力歯科医院の来訪があり、歯科衛生士の方の協力も得、細かな指導を介護職員は受けることが出来る。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のバリエーション、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄エントラック表に排泄の状況を記載し、個別記録には状態の記録を行っている。気になった事は申し送りの場を利用したり他職員と意見交換をおこなったり日々の変化に柔軟に対応している。	トイレでの排泄を可能にするために排泄エントラック表をもとに本人の生活リズムを把握している。一人ひとりのサインを全職員が把握し、尿意のない方も時間を見計らって誘導することにより、日中トイレで排泄できるよう支援している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や調整、乳製品の提供や中止などお通じの異常には留意している。便秘が続くようなら看護師に連絡し指示も受けている。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムスケジュールに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望やその日の体調に合わせて入浴の形態を臨機応変に変更し入浴して頂いている。その方の生活歴や好みを把握し安全で快適に入浴を楽しんで頂けるよう努力している。	週2～3回入浴していただく。入浴という行為は、利用者の習慣や希望に多様性があり、それを活かすことが本人の満足と安心につながる。好みをよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援を行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は定めず、入居者様のペースに合わせて休んでいただいている。照明・空調・室温などを考慮しこまめな調整を行っている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報共有は行っている。身体状況の変化を見逃すこと無く、看護師・主治医への連絡を密に行っている。特に緩下剤については日々の状態に合わせて看護師の指示の下、適切な対応をしている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりの生活習慣や能力に応じた役割を果出している。家族様の協力を得ながら嗜好品の提供につきも可能な限り対応している。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、長期に渡り外出支援が困難な状況であったがお正月には、「神社巡り」と称しドライブを楽しんで頂いたりした。	コロナ禍で外出行事が行えないが、屋内だけで過ごすイベントがたまに体調不良にもつながらず、戸外に出る機会を得るために屋内を活用し季節感を感じていただく。フロア一内でのクリスマス会や毎朝の体操やリズム体操など活動の機会を作っている。初詣は長田神社へ車中のみでのドライブを行っている。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はしていない。外出が出来ていない昨今で、必要な物品や嗜好品については職員が立替購入を行い請求書に計上している。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族様との交流をしてもらっている。携帯電話を使用されている方もおられる。又、手紙を受け取ったり返事を返したりと家族様や友人との繋がりを大事にする取り組みを行っている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を心がけ動線を確保できるよう邪魔にならない物は控えながらも、各階には季節感を味わって頂けるように入居者様と一緒に作成した飾り付けをしている。	共用の空間が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、生活感や利用者と一緒に作成した季節感を得る飾り付け等を探り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い、思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特定の入居者様が孤立しないように座席の配置に留意している。職員は、記録などの作業時、入居者の横に座ったりしながら会話の橋渡しを行う場合も多い。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にキャビネットを用意して頂いている。写真をおいてもらったり、家族様からの贈り物を飾ったりして自由な自由なその方らしい空間作りを行い居心地の良さを提供に心がけている。	ご家族と相談し、キャビネットを用意して頂き、ぬいぐるみや写真や家族からの贈り物を飾る等壁に色とりどりの折り紙を飾ったり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には自室であることが認識できるように手作りの表札を付けている。トイレや風呂場もわかるよう張り紙をしている。出来る方には洗濯物を職員と一緒に畳んだりネット交換時にも手伝って頂いたり様々な場面で自立支援に努めている。			